

第 2 回未来を拓く人づくり部会（令和 2 年 8 月 4 日） 委員発言要旨

議事	テーマ	発言要旨	発言者
第 1 回部会での意見整理等について	施策の方向性	提言の趣旨について、特に ICT 関連に関しては時代を先取りした取組が重要であり、施策立案の際にはそうした視点が必要である。	林信太郎部会長
第 3 期ふるさと秋田元気創造プラン「戦略 6」の取組状況等について	キャリア教育の推進	キャリア教育とふるさと教育を結び付ける取組は先進的であるが、今後はビジネスの視点まで踏み込んで、より深化したふるさと教育、キャリア教育を行っていただきたい。	林信太郎部会長
	ふるさと教育の推進	定着回帰や人・もの交流といった、他の専門部会の所掌に関わることも、ふるさと教育の一層の推進により地域の魅力を理解させることがその土台になるのではないかと。	林信太郎部会長
	教育の ICT 化（運用計画）	教育現場における ICT 環境の整備については、単に新型コロナウイルス感染症への対応というものではなく、県として中期的に行う ICT 教育の戦略的水準を設けることが重要である。	豊田哲也委員
		世の中の ICT 化が加速する中、秋田が教育の ICT 化の流れに先んじて取り組まなければ、「教育立県あきた」のブランドを維持することができなくなると考える。	豊田哲也委員
	教育の ICT 化（教育内容の充実）	オンラインの活用により秋田県の地理的不利を解消し、海外交流や最先端技術の体験など、生徒の学習意欲を刺激する取組を積極的に展開していただきたい。	豊田哲也委員
		教育の ICT 化が進む中で、秋田の探究型授業をどのように発展させていくのかが重要になる。文化財や地域課題を組み込んだ、秋田ならではの取組を目指していただきたい。	豊田哲也委員
		大学のオンライン授業で Zoom を利用したところ、学生の発言量が増えるという利点が生じた。おそらく高校などでも同様の傾向が見られることから、有効な活用方法を見据えていただきたい。	林信太郎部会長
		通信速度が確保できるのであれば、指導する教員も学校内に縛られず、例えば博物館や屋外から授業ができる。授業のクオリティを高める ICT 機器の有効な活用方法について考察する必要がある。	豊田哲也委員

議事	テーマ	発言要旨	発言者
第3期ふるさと秋田元 気創造プラン「戦略 6」の取組状況等につ いて	特別支援教育の拡 充	高等学校においても、特別な支援を必要とする生徒に対応することが重要であり、研修を受講した教員の割合を100%にするための働きかけが必要となる。	林信太郎部会長
	理科教育の推進	理科離れを防ぐには、子ども達の「理解」と「興味・関心」という視点を考慮した、理科を嫌いにさせない授業の展開が重要である。	林信太郎部会長
	英語力の向上	英語学習に対する児童生徒の興味関心を引くため、ふるさと教育と結び付けた取組を展開していただきたい。	豊田哲也委員
		以前作成した副教材を、ICT環境で使用できる形に発展させ、有効に活用していただきたい。	豊田哲也委員
	国際交流の推進	海外派遣者を選抜する予選大会や、派遣先と秋田をオンラインでつないだライブ討論など、オンラインの活用により交流活動活動の参加者の裾野を広げていただきたい。	豊田哲也委員
		観光行事の際に、中学生が海外からの観光客を英語で案内している事例がある。生きた英語に触れ、英語を活用するより身近な機会であると考えことから、全県的な取組に発展させていただきたい。	野崎一委員
		異文化に触れ、多様性を認識することは、豊かな心の育成においても重要であり、国際交流の展開は人間性の形成においても大変有効なのではないか。	佐藤有加委員
	いじめ問題への対 応強化	いじめは早期に発見し、対処する必要がある。認知件数が増えることは悪いことではないので、引き続き積極的 にいじめの発見に努めていただきたい。	林信太郎部会長
		いじめの解消には保護者との連携が必要な場合があること から、秘匿性を担保しつつも第三者が立ち会うような 仕組み作りも必要なのではないか。	野崎一委員
		教育のICT化が進む中であっては、SNS上でのいじ め問題の防止・解消に向けた取組を強化する必要がある。 例えば、ICT教育のサポーターにそうした部分の ケアも担っていただきたい。	野崎一委員
	インターネットの 適正利用の推進	インターネット利用のモラル教育に関しては、児童生徒 と保護者が一緒に受けることで効果が高まると考える。	野崎一委員

議事	テーマ	発言要旨	発言者
第3期ふるさと秋田元 気創造プラン「戦略 6」の取組状況等につ いて	運動部活動指導力 の向上	部活動の外部指導者の中には、古い指導理論のまま活動を続けている方もいることから、競技力の向上と障害予防の観点による研修活動を継続的に実施していただきたい。	林信太郎部会長
	教育のICT化 (環境整備)	ICT機器の導入にあつては、機器の性能に加え、児童生徒の扱いやすさや耐久性という視点も必要である。	林信太郎部会長
		ICT教育を推進するためには、学校内でのサポート体制の構築が重要になるのではないかと。	佐藤有加委員
		1人1台環境を目指して導入するタブレット端末については、屋外などでの使用も考慮し、携帯電話の4G通信規格に対応していることが望ましい。	林信太郎部会長
		学校現場のオンライン化を進めるのに併せ、教育委員会や教育事務所など、基幹となる施設のインフラ整備も進める必要がある。	林信太郎部会長
		秋田の将来を支える人材の育成に向けて、次の時代を見据えた投資を確実に行うことが重要である。	野崎一委員
	防災教育の推進	秋田県の防災教育は非常に進んでいると評価しているが、災害予防の観点から、取組が後退しないよう引き続き努力していただきたい。	林信太郎部会長
	高大連携の推進	大学が地域と密接に関わる取組は恒常的に行われるべきである。小中高等学校のオンライン化という喫緊の課題に対しても、しっかりと連携を図っていただきたい。	林信太郎部会長
	生涯学習講座の 発展	オンラインの活用は、生涯学習分野においても参加者の利便性を高める有効な手段であり、導入に向けて検討する必要がある。	佐藤有加委員
		生涯学習関係の諸講座について、高齢者に情報が届いていないように感じる。できるだけ多くの人が情報に触れるように工夫する必要がある。	野崎一委員
文化財の活用	学齢が上がるにつれて地域行事への関わりが少なくなる傾向にある。地域の祭りなどに中学生や高校生が担い手として積極的に関わっていく施策があればよいのではないかと。	野崎一委員	

議事	テーマ	発言要旨	発言者
第3期ふるさと秋田元気創造プラン「戦略6」の取組状況等について	文化財の活用	担い手不足を中高生が支えることで、文化の継承と郷土愛の醸成という二つの効果が生まれる。次年度に向けては、地域文化とふるさと教育をより結び付けた施策を打ち出していきたい。	林信太郎部会長
		縄文遺跡群が世界遺産になれば海外からの観光客が見込まれる。これに対応しようとする中で、ふるさと教育と英語教育をミックスした、身近で興味関心の高い教材となるのではないか。	豊田哲也委員
		秋田県内にはイギリスのストーンヘンジやイタリアのポンペイと同じような遺跡があるが、あまり知られていない。例えば、県内の史跡地を巡る修学旅行コースなどを企画できれば、郷土への興味が強まるのではないか。	豊田哲也委員
		秋田城については、大宰府と同じ中世の外交の要所でありながら、観光利用が少ない状況である。こうした事例からも、ふるさと教育を産業やビジネスの視点まで発展させる施策が必要と考える。	豊田哲也委員
	他部会（産業） ウィズコロナ オンラインの有効活用	世の中のオンライン化における産業構造の変革は、秋田県にとってチャンスになり得る。産業のオンライン化にいかにも早く対応し、本県の富を維持していくかが重要である。	豊田哲也委員
		コロナの発生以降、各都道府県では地場製品のネット販売に力を入れているが、秋田県の事業者はこの取組が弱いと感じる。オンラインを産業に組み込んでいくという全体的な視点が必要なのではないか。	豊田哲也委員
		県内の産業分野においてオンライン活用の活性化を図るためにも、教育部門におけるICT教育が非常に重要である。	林信太郎部会長
	他部会（医療） ウィズコロナ オンライン診療の普及	オンライン診療の拡大については、病院側の設備面の整備だけでなく、高齢者側でもネット環境の整備や操作スキルの習得といった取組が必要である。	豊田哲也委員
		高齢者のオンライン診療に関しては、各地の公民館にWi-Fi整備し端末を使えるようにするだけでハードルがぐっと下がるのではないか。	豊田哲也委員
		町内会等に1人のICT指導者を派遣することで全体的なインターネット利用能力を高めることが可能になるのではないか。	豊田哲也委員